

発売するのは「DAU-1ミニ」。粉碎機に原料を投入すると、超硬合金の刃で粉碎する。刃の回転による空気の流れで、原料は粉碎室の中を循環し繰り返し粉碎される。細かくなつた超微細粉末

増田幸也社長は小型で低価格な超微粒粉碎機を開発し、9月に発売する。従来より少量の粉末しか採取できないが、小型にして価格を4分の1程度に抑えた。化粧品や食品業界などでは、肌への浸透や吸收を高めるなど、原料を微細にする需要が高まっている。企業の研究開発部門などへの需要を見込む。

粉碎機専門メーク

装置小型化、価格1／4に

増幸産業が開発

食品・化粧品研究向け

▼超微粒粉碎機 原料を細かく碎く機械。粉碎後の粒径が1～10マイクロとなる機械を、一般に指す。刃や石臼などを組み合わせて粉碎する気流式ミルや、ジェット気流で原料同士などをぶつけて粉碎するジェットミルなどがある。化学、塗料・顔料メーカーのほか、食品や医薬品メーカーなど幅広い分野で研究開発に使われている。

粒径を1~10
ミクロンまで微細化できる(川口市の本社工場)



The chart illustrates the projected sales volume for a crushing machine over a five-year period. The y-axis represents the number of units in thousands, ranging from 0 to 80. The x-axis shows the dates: 2009/6, 10/6, 11/6, 12/6, and 13/6. The bars show a steady increase in sales volume, starting at approximately 25 thousand units in 2009/6 and reaching about 75 thousand units by 2013/6.

Date	Sales Volume (Thousands)
2009/6	~25
10/6	~35
11/6	~38
12/6	~50
13/6	~75 (見込み)



品開発に超微細粉末を使
う需要が高まっている。リチウムイオン電池に
使用するニッケルやコバルトなどの金属について
も、微細化によって蓄電の効率が向上するため、
技術の開発が進む。初年度1億円の売り上げを見
込める。同社はあらゆる物質を細かく粉碎する技術を持
ち、食品用超微粒粉碎機では国内トップのシェアを握る。新製品の寄与もあり、2013年6月期売上高は前期比27%増の7億円を見込む。